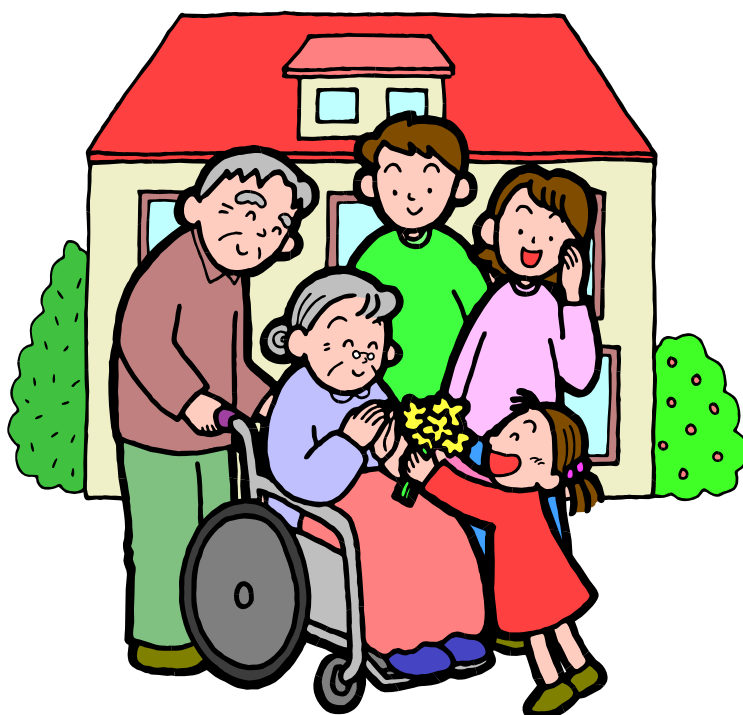


北海道福祉のまちづくり表彰

平成30年度

北海道福祉のまちづくり賞 受賞事例集



障がいのある人やお年寄り、赤ちゃんを連れた人など

みんなにやさしいまちづくりを進めましょう！

北海道福祉のまちづくり表彰は、平成10年「北海道福祉のまちづくり条例」の施行の年にスタートし、今年度で20回目を迎えました。福祉的配慮に優れた優良事例を広く道民や関係事業者に紹介し、普及啓発を図ることを目的に実施しています。

公共的施設などの整備、障がい者や高齢者等の自立・社会参加の支援活動、障がい者や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具の製作を奨励するべく3部門構成で募集を行い、「福祉のまちづくり」を推進しています。

今年度は、公共的施設部門7件、活動部門7件、福祉用具部門5件の御応募をいただいた中から、学識経験者、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する懇談会による意見聴取等を経て、公共的施設部門1件、活動部門2件、福祉用具部門2件、計5件を北海道福祉のまちづくり賞に選定しました。

平成30年度 北海道福祉のまちづくり表彰の概要

1 趣 旨

誰もが安心して暮らすことができるような「福祉のまちづくり」を進めるため、福祉的配慮に優れた公共的施設等の所有者・設計者、障がい者等を支援するための活動を行っている団体及び障がい者等の自立支援や介助者の負担軽減を図る福祉用具・製品等の製作者を表彰します。

2 主 催

北海道

3 後 援

札幌市、北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会

4 対 象

○ 公共的施設部門（福祉的配慮に優れた公共的施設等）

北海道福祉のまちづくり条例に規定する公共的施設等（※）で、道内に所在し、平成27年7月1日から平成30年6月30日までに完成したもの。

※ 多数の人が利用する病院やスーパーマーケット、サービス付き高齢者向け住宅等の建築物、公共交通機関（駅舎等の施設及び車両）、公園など

○ 活動部門（障がい者・高齢者等の自立・社会参加支援活動）

北海道福祉のまちづくり条例の趣旨に基づき、障がい者・高齢者等の自立と社会参加を支援するために、道内で取り組まれている活動。

○ 福祉用具部門（福祉用具、製品等）

道内において研究開発又は製作された、障がい者や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具（福祉用具、製品等）。

5 応募方法

所定の応募用紙を提出。他薦も可。

6 募集期間

平成30年5月1日～平成30年6月30日

7 北海道福祉のまちづくり懇談会構成員（五十音順）

佐藤 克之 北翔大学大学院人間福祉学研究科 教授

三瓶 徹 社会福祉法人 北海長正会 理事長

白石 淳 北海道医療大学 看護福祉学部 教授

牧野 准子 障がい当事者講師の会 すぷりんぐ 代表

山本 明恵 特定非営利活動法人 さっぽろ住まいのプラットフォーム 理事長

8 懇談会経過等

第1回懇談会 8月23日（木）

公共的施設部門現地確認 8月31日（金）、9月3日（月）

第2回懇談会 9月19日（水）

表彰式 10月23日（火）

9 お問い合わせ先

北海道保健福祉部福祉局地域福祉課地域福祉推進グループ

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111（内線25-614） / FAX 011-232-4070

札幌禎心会病院



【利用者視点を重視し、ユニバーサル化を目指した病院】

円弧状の形態と敷地内のオープンスペースによる歩道と一体化したゆとりある外部空間は地域住民に貢献するとともに地域のランドマークとなっている。

高齢者や肢体不自由者等の受け入れには万全を期し、車いす駐車スペースのロードヒーティング、車いす対応のトイレ、ベビーシートやオストメイトを設けた多目的トイレ、一段低いカウンターやエレベーターの操作やエスカレーターへの転倒防止への配慮、行きたい場所や何らかの情報や注意を示すための表示（サイン）は、個々の文字をわかりやすくしたユニバーサルデザインの書体となっている。

条例に基づく整備基準に適合し、利用者への視点と安全性への配慮や地域への貢献を十分に考えた病院として高く評価された。



総合受付



多目的トイレ



病室（4人部屋）

受賞者の声

「良質な医療介護を通じて、地域社会の繁栄に貢献する」が法人の理念です。病気で入院される方、外来通院される方はもちろん、医療を通じて地域住民の方々と連携して、より良い地域社会の構築に貢献してまいります。

所有者：社会医療法人禎心会

設計者：株式会社 日建設計、株式会社 北海道日建設計

所在地：札幌市東区北33条東1丁目3-1

平成30年度北海道福祉のまちづくり表彰（活動部門）
北海道福祉のまちづくり賞

北海道帯広農業高等学校 農業クラブ



【高校生と障がい児が農業を通じて交流活動】

高校の農業クラブと市、社会福祉協議会、ライオンズクラブが連携し、障がいを持った子どもたちと高校生が、播種から管理作業、収穫までの農作業のほか、搾乳体験、森林アトラクションなどの様々な交流活動を行っている。

障がいを持った子どもたちが、毎回楽しみながら、畑に入り土に触れ、野菜の収穫などの体験をし、高校生も障がいを持った子どもたちと交流することにより、ノーマライゼーションの精神を養っている。

平成14年から今年で17年目を迎え、長期間にわたって継続していることも高く評価された。



播種



収穫



参加者との交流

受賞者の声

私たちは障がいを持った子ども達に、農業の魅力を感じてもらうことを目的とし活動してきました。代々受け継いできた活動を、このように評価して頂き嬉しく思います。今後も多くの子どもに農業の魅力を伝えたいです。

所在地：帯広市稲田町西1線9番地

平成30年度北海道福祉のまちづくり表彰（活動部門）
北海道福祉のまちづくり賞

一般社団法人日本UD観光協会



【高齢者、障がい者が快適な旅を楽しんでいただくために】

誰もが安心・安全な旅を楽しめるようにサポートするため、観光と福祉のサービスに精通した「観光介助士」制度を創設し、様々な観光に同行し活躍している。

このほか、観光地における災害時対応バリアフリーセミナーの開催やユニバーサル観光情報誌「くるくる北海道」を発行し、道内各地のユニバーサルデザイン情報を発信するなど、すべての人が安全・快適に観光ができるユニバーサルデザイン観光の普及と促進に向けた活動が高く評価された。



観光介助士資格取得講座（実技）



災害時対応バリアフリーセミナー



「くるくる北海道」

受賞者の声

「だれもが安心・安全・楽しい旅を」をテーマに、バリアフリー観光情報誌の作成や、「観光介助士」講座による人材育成が評価され大変感謝です！これから多くの方が「旅をあきらめない」世の中を目指し活動します！

所在地：札幌市北区北8条西4丁目18番地4号

苫小牧市福祉トイレカー「とまレット」



【車いす利用者の行動範囲が広がる福祉トイレカー】

苫小牧市では、車いすで利用できるトイレを設置してほしいとの要望があったが、場所の確保や維持管理の面から設置は困難であった。そこで市の公用車としてオリジナルの福祉トイレカーを開発した。

祭りなどの集客性の高い催事等の会場に福祉トイレカーを設置。出入口には車いす用リフトもあり、内部は利便性を考え、広々としたスペースが確保されている。

車いす利用者がトイレの心配をすることなく、行動範囲を広げる大きな役割を果たしていることが高く評価された。



祭りの会場にて



乗降リフト



トイレ内

受賞者の声

車いす利用者などの社会参加の促進を目的に、自治体として全国で初めて導入しました。
この度の胆振東部地震では、広域支援として厚真町に出動しました。
市制施行70周年の年に受賞できたことを嬉しく思います。

製作者：苫小牧市

所在地：苫小牧市旭町4丁目5番6号

平成30年度北海道福祉のまちづくり表彰（福祉用具部門）
北海道福祉のまちづくり賞

AIRDO新千歳空港 チェックインカウンター



【ユニバーサルデザインの空港チェックインカウンター】

すべての人が使いやすく、分かりやすいユニバーサルデザインのカウンターとして、本年1月にリニューアルした。

カウンター幅を拡張し、窓口の数も倍増。このうち車いす利用者や高齢者にも使いやすいようローカウンターも新設し、座りながら案内を受けられるようになっている。

カウンターでは、「サービス介助士」などの資格を取得した社員やスタッフが、高齢者、障がい者をはじめとするすべての人に充実した旅を提供している。

さらに、資格取得のため社員に支援を行うなど、人材の育成が充実していることも高く評価された。



ローカウンター



ベビーカー等収納スペース



車いす介助の訓練

受賞者の声

当社就航20周年に当たる年に表彰をいただき大変うれしく思っています。私達は「北海道の翼」として、今後も高齢者や障がい者の方々をはじめすべてのお客様に快適な空の旅を楽しんでいただけるよう努めてまいります。

製作者：株式会社 AIRDO

所在地：札幌市中央区北1条西2丁目オーク札幌ビル8階

